

隠岐諸島新産の植物 (11)

海士町 丹後 亜興

シソクサ *Limnophila chinensis* ssp. *aromatica*

シソに似た強い香りがあるということで“紫蘇草”であるが、シソよりもずっといい匂い（爽やかで上品）だと思う。そもそもシソ（シソ科）とは、科からして別のオオバコ科（旧ゴマノハグサ科）の植物、成分が違うのかもしれない。学名のアロマティカも“芳香がある”の意。東南アジアでは食用にする国もあるという。

生育地は主に水田とされ、深い山中や人の行かないような特殊な環境ではない。では何故、今まで見付かっていないのか？南方系（関東以西）の種なので、隠岐が寒いのだろうと考えたが、調べてみると九州でも稀なものだった。事実、23 都府県のレッドデータリストに挙がっている。つまり、元々「希少な種」だったのだ。

シソクサの生育は、環境の自然度の指標となり得るという。つまり、シソクサがある位ならまだ他にも珍しいものがあるはずだ…。案の定、サワトウガラシ *Deinostema violaceum* の青い花がそばに咲いていてびっくり仰天。サワトウガラシは島後の津井（さい）の池にわずかにあったが（男池）、最近見えなくなったので絶滅かな？と嘆いていたものだ。

発見場所は、隠岐の島町の今津地区。見るところ、水田雑草にとっては最も恐い“圃場整備”の洗礼は受けているようだ。だけど、今津は水が豊富な土地のせいか昔ながらの湿田がまだ残っている。水田植物の減少・絶滅の原因として、圃場整備による乾田化や除草剤の多用がよく言われるが、致命的なのは“休耕（耕作放棄）”である。休耕して2～3年たつと大型の普通種がのさばり、生命力の弱い希少種は徐々に追い詰められる。そして、ついには消滅。現地で水田の持ち主に伺ったところ「まだ数年は耕作を続けます」という話だった。ヤレヤレ。

他にも、開発による土地造成・土木工事の残土による埋め立て・川や溜池の改修・護岸工事等々。全く！水辺の植物に未来はない。やむを得ない理由があれば諦めるとしても、ちょっとした工夫やわずかな経費で守れるものなら、何も隠岐からその種を絶滅させることはない。今後の行政の“やる気”に期待したい。

花（長さ約 1cm, 唇形花なのに真上を向いて開く）



草姿（葉は対生で一部 3 輪生, 花は白いが時にピンクを帯びる）



撮影：2017.9.21 隠岐の島町今津(水田)